

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

平成29年11月28日

会派名 社民党

代表者 伊藤 一之 様

出張者

伊藤一之



次のとおり、政務活動（政務調査）のため出張したので、その概要を報告します。

1 出張先 埼玉県滑川町
東京都足立区

2 出張日時 平成29年11月21日～平成29年11月22日

3 政務活動事項

学校給食無償化について

子どもの貧困対策について

4 政務活動結果

別紙のとおり

5 費用 45,370円

会派・政務活動視察報告書

2017年11月21日(火)～22日(水)

社民党 伊藤 一之

● 1日目

(1) 日時 2017年11月21日(火)14時00分～

(2) 視察先 埼玉県滑川町

(3) 視察項目

- 1、給食費の無償化について
 - ア、学校給食無償化に至る経緯について
 - イ、財源について
 - ウ、保護者や生徒への影響と効果について

(4) 所 感

13時25分、唐津から長い道のりであったけれども、念願の滑川町に到着をした。東武東上線「森林公園駅」に降り立った。平日のせいなのか閑散としていた。昼食がまだだったので駅前で食堂に立ち寄り、3人で天玉うどんを注文したが、安価な割には美味しく食べさせていただいた。その食堂のご主人夫婦やお客様に滑川町の暮らしなどを伺った。暮らしやすさも言っていたが、給食費の無償化も政策として存じているということであった。

14時から議会委員会室で意見交換を行い、議長、副議長とともに同席をしていただいた。木村議会事務局長の進行で進められ、北堀議長から歓迎の挨拶を受けた。滑川町の特徴や吉田町長の「給食費無償化」への熱い想いなどが代弁をされた。

「学校給食費の無償化」について澄川教育委員会事務局長・教育総務担当からこれまでの経緯、中村教育委員会事務局主事・教育総務担当から 詳しく説明をしていただいた。給食費無償化の財政についての議論は滑川町議会ではあまりされなかつたそうだ。町長の思いに答えるべく議会も対応をしたということであった。唐津市でも市長公約にあることなどをお話しし、ざっくばらんな話ができたと考える。無償化による給食費の徴収の簡素化などメリットがあることや、住宅を建てる際に、給食費の無償化で月々の出費が抑えられるメリットなどで滑川町を選択している実例もあった。子どもの貧困対策とともに人口増加への施策としてもしっかりと考えるべきだと感じた。

● 2日目

(1) 日時 2017年11月22日(水)9時30分～

(2) 観察先 東京都足立区

(3) 観察項目

1、子供の貧困対策について

ア、未来へつなぐあだちプロジェクトの策定経緯（足立区が考える貧困の定義など）

イ、足立区の子どもの現状（就学援助や進学率、学力等）

ウ、具体的な取り組み

エ、対策の効果や影響は

(4) 所感

9時30分から足立区役所議会会議室で意見交換を行った。資料等も多く用意していただいた。子どもの貧困対策課を設置に至った理由などもうかがった。足立区のイメージが①スウェットやジャージで歩いている人が多い。②若者がコンビニの前でたむろしている。③ニュースで流れる事件発生場所で、足立区の名前をよく聞く。などであったため、改善を目指すために、取り組みの強化を図った一環であるとのことであった。

したがって治安、子どもの学力、健康寿命の短さ、貧困の連鎖の「4つのボトルネック的課題」を克服しない限り区内外から正当な評価が得られないと位置付けて取り組みを進めてきたという事であった。唐津市には当てはまらないかもしれないが、「子どもの貧困の連鎖」という点においては共通するものがあると考えた。

平成20年以降の調査の資料等で説明を受けたが、様々な取り組みの中で、その「4つのボトルネック的課題」が大きく改善をしていることが数値にも顕著に表れていた。人口や財政規模が大きく違うので、全てが唐津で出来るわけではないが参考にする点は多いと興味深く説明を聞いた。特に「子供の貧困問題が生涯所得に与える影響」については、考えさせられた。子どもの貧困問題が解決するのとしないのでは経済損失が2.9兆円、税収も1.1兆円の減になるとの事であった。その説明にも説得力があった。

そして、人口推移、生活保護者人口と18歳未満人口の推移、家庭での朝食取得率と貧困の関係、虫歯の処置率との関係など考えられるデータを多く取得していた。まず何をやらなければならないのか。唐津としてもデータをいろんな角度からとっていくべきであると考える。そのうえで「子どもの貧困対策実施計画」をしっかりと策定すべきだと強く考えた。